

第2回 鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者選定委員会 会議録

日 時：令和6年（2024年）10月3日（木） 14：00～16：30

場 所：鎌倉市役所 全員協議会室

出席者：【鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者選定委員】

村井委員長、西村副委員長、伊藤委員、平沼委員、佐渡委員

【事務局】

島田文化課長、丸山課長補佐、大庭職員、里原職員

審査案件：

- 1 書類審査について
- 2 ヒアリング方法の確認について
- 3 議題
 - (1) 提案者のプレゼンテーション
 - (2) 提案者へのヒアリング（質疑・応答）
 - (3) ヒアリング結果審査
 - (4) 結果報告
 - (5) 指定管理者候補者の決定について
- 4 今後の予定について

○審査内容

開会后、事務局から本日の進め方について、応募者からのプレゼンテーション15分、ヒアリング30分程度の後、各委員が採点を行い、その結果が7割を超えた場合、審査結果報告書を取りまとめることを確認した。プレゼンテーションの前に、各委員から予定している質問項目を取りまとめ、内容を整理した。

次に、川喜多・KBSグループがプレゼンテーション及びヒアリングを行った。主な質疑は次のとおり。

委員：基本方針等は、もう少し考えてほしいと思った。スクリーンで鑑賞することがネット配信と比べて「特別な体験」であると提案書で述べられているが、具体的にどのような方策を考えているか。

団体：一つの方法として、配信やソフトの販売がされていない映画を上映することが挙げられる。また、スマートフォン等の小さい画面ではなく、大きなスクリーン上で観ることに意義がある映画を上映することも考えられる。特に若年層に対して普及していこうと思う。

委員：労働法関係に関して、遵守するとしか書いておらず、具体案を確認したい。

団体：労働基準監督署と話をし、細かい条件など労働状況を見ていただいて、ホワイトだと明確に分かってもらえたと思っている。

委員：警備体制について、外部への撮影協力時に日中の配置が1人ないし2人で対応できるか。

団体：想定しているのは、スチール撮影などであり、今の人員で対応可能と考えている。過去に実施した撮影においても、人員が足りないことはなく、予定時間内に完了している。

委員：ハラスメントの具体的取組と体制を教えてください。

団体：年1回のアンケート調査と面談を実施している。少人数の組織であるため、実際に相談があった時は、担当の理事が対応している。また来館者対応に関しては、不当要求への対応マニュアルを作成し、組織として取り組むよう体制整備をしている。

委員：ハラスメント対応については、相談しやすい者が窓口になることが望ましい。プライバシーを守って、本人の不利益にならないようにすることが規則等に定められている必要がある。外部の相談窓口を設ける必要もあると思う。実際にハラスメント事案が発生した際の対応の流れについて図式のようなものが無いのであれば、作成していただきたい。

委員：総評としては良いと思った。ただ、全体が抽象的であると感じた。まず、鎌倉の映画文化をどう捉えているか。例えば、国立映画アーカイブをはじめ、都内のミニシアターでは、結構面白い企画を実施している。その辺りをどう考えているのか伺いたい。

団体：そもそも、国立映画アーカイブと川喜多映画記念館が上映するものは明確に違う。国立映画アーカイブは研究目的で訪れるところであり、記念館には観光のなかで寄る人もいるので、正直、内容が尖ったものは上映しにくい。鎌倉の映画文化について、様々な著名人等をまとめて鎌倉映画文化と考えている。

委員：チラシの内容が寂しいように思う。

団体：読み物のようなチラシを作成したいが、上映スケジュール等の情報をわかりやすく伝えることがメインであるので、現在の形式になっている。バランスが難しく、検討課題である。

委員：災害が起きた際にどのように対処するのか教えてください。

団体：危機管理マニュアルを作成しており、実際に災害が起こった際の対策本部の設置、対応手順等を内部で共有し、スタッフ全員が把握している。年2回の避難訓練も実施している。現場の意見を取り入れ、マニュアルの強化も随時行っている。

委員：この話に関連して、記念館だけでなく、地域と連携する必要があると思うが、その点はいかがか。

団体：近隣の美術館や博物館職員と集まる機会があり、避難場所になる施設の周辺では、どこに退避するかなどについて話し合った。その点をマニュアルにも反映した。

委員：新しい試みの実施について伺いたい。学生等を巻き込んで、AIなども活用して動画作成をしてはどうか。

団体：機材の進化が目まぐるしく、提案いただいた内容を記念館で実施することは難しいと感じている。現在、ぐるぐるアニメワークショップという子ども向けの企画を実施しているが、より原初的な仕組みを体験してもらおう取組として、今後も実施していく。

委員：提案書の前半は内容が甘く、後半は具体性を感じて評価しうると感じた。まず、事業等が新規か継続か不明である。その次に組織体制図がない。指定管理者としての抱負を現場の視点から聞きたい。

団体：建物を維持し、来館者の安全の確保することが第一使命である。また、旧和辻邸を含めて景観を考慮した維持をこれまでの経験を活かして図っていく。

団体：鎌倉の映画人というテーマに力を入れてきた。これまでは大きな切り口で企画展を実施してきたが、より多くのバリエーションをもって、関連付けをしていきながら実施していく。記念館は、上映と展示が両方あり、毎回違う企画展を実施する点が、全国的に珍しい館であ

ると考えている。上映後には解説もしているが、こういった強みを増やしていきたい。

団体：鎌倉映画地図という企画展の際に、サポーターと共にオリジナルグッズの冊子を作成し、冊子を手にしたがらの散策ツアーを企画した。企画する上で調べ物をしていると、映画を通して鎌倉の魅力を知り、鎌倉を通して映画の魅力を発見するといったように吸収の機会が多くあった。現在、サポーターとそれらを共有し、一緒に感じ、一緒に発信していく関係性ができており、今後も継続していく予定である。また、鎌倉の映画人のことや映画文化の継承もこれまでどおりしっかり継続発信していく。さらに、映画『海街ダイアリー』で訪日外国人からの興味も向いており、そのニーズにもしっかり応えていく。市民と観光客が交流できる場として、これからもあり続けたい。

委員：サポーターの内訳は。

団体：20名程度で、年配の方が多い。大学生も増えてきた印象がある。

委員：旧和辻邸を積極的に活用して欲しい。

団体：公開の方法は、考えてきている。これまでの春と秋の公開以外にも、特別公開を検討している。最近では、紫陽花の時期に近隣の鏑木清方記念美術館の庭とセットで見てもらうツアーなどを実施している。なるべく頻度は増やしたいと考えており、そのための維持管理はしっかりと行っていく。

次に、各委員が採点を行い、事務局が評価シートを回収し集計を行った。集計結果は100点満点中73点であり、合格点の70点以上であったことを報告した。

その後、協議を行い、提案書において示されなかった組織体制図について、応募者に提出を求め、その内容を確認した上で川喜多・KBSグループを鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者候補者として選定することを決定した。

以上で、本日の委員会は終了した。